

特定行為研修周術期麻酔管理領域パッケージ修了報告書

提出日： 年 月 日

保健師助産師看護師法第三十七条の二に基づき以下の者の特定行為研修が修了したので、報告いたします。

所属(施設名)：  
氏名(受講者)：  
受講区分：日本麻酔科学会 周術期麻酔管理領域パッケージ

1. 共通科目 (学研メディカルサポート/日本麻酔科学会周術期特定行為研修e-ラーニング)

科目名	講義 (時間数)	演習 (時間数)	実習 (時間数)	評価 (時間数)	合計 (時間数)
臨床病態生理学					0
臨床推論					0
フィジカルアセスメント					0
臨床薬理学					0
疾病・臨床病態概論					0
医療安全学/特定行為実践					0
合計	0	0	0	0	0

講義・演習・実習ともに 年 月 日に受講修了確認済み

2. 共通科目修了試験結果 ( 年 月 日実施)

科目名	満点	素点	正答率(%)	合否
臨床病態生理学	80		0	否
臨床推論	80		0	否
フィジカルアセスメント	80		0	否
臨床薬理学	80		0	否
疾病・臨床病態概論	80		0	否
医療安全学/特定行為実践	80		0	否
合計	480	0	0	否

3. OSCE ( 年 月 日実施)

特定行為名	評価者氏名	外部評価者氏名	総合評価	合否
経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整			0	否
直接動脈穿刺法による採血			0	否
橈骨動脈ライン確保			0	否

4. 区別科目 (学研メディカルサポート/日本麻酔科学会周術期特定行為研修e-ラーニング)

科目名	講義 (時間数)	演習 (時間数)	評価 (時間数)	合計 (時間数)
呼吸器(気道確保に係るもの)関連				0
呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連				0
動脈血液ガス分析関連				0
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連				0
術後疼痛管理関連				0
循環動態に係る薬剤投与関連				0
合計	0	0	0	0

講義・演習・実習ともに 年 月 日に受講修了確認済み

5. 区分別科目修了試験結果 ( 年 月 日実施)

小区分	満点	素点	正答率(%)	可否
<b>&lt;呼吸器(気道確保に係るもの)関連&gt;</b>				
呼吸器(気道確保に係るもの)関連 (共通)	25		0	否
経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	25		0	否
<b>&lt;呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連&gt;</b>				
呼吸器 (人工呼吸療法に係るもの) 関連 (共通)	30		0	否
侵襲的陽圧換気の設定の変更	30		0	否
人工呼吸器からの離脱	30		0	否
<b>&lt;動脈血液ガス分析関連&gt;</b>				
動脈血液ガス分析関連 (共通)	30		0	否
直接動脈穿刺法による採血	20		0	否
橈骨動脈ラインの確保	20		0	否
<b>&lt;栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連&gt;</b>				
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 (共通)	50		0	否
脱水症状に対する輸液による補正	30		0	否
<b>&lt;術後疼痛管理関連&gt;</b>				
術後疼痛管理関連 (共通)	25		0	否
硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	25		0	否
<b>&lt;循環動態に係る薬剤投与関連&gt;</b>				
循環動態に係る薬剤投与関連 (共通)	50		0	否
持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	25		0	否

6. 実習症例

特定行為	必要経験症例数	実施症例数
経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	5~10	
侵襲的陽圧換気の設定の変更	5~10	
人工呼吸器からの離脱	5~10	
直接動脈穿刺法による採血	5~10	
橈骨動脈ラインの確保	5~10	
脱水症状に対する輸液による補正	5~10	
硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	5~10	
持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	5~10	

7. 講評

上記特定行為研修に係わるすべての研修において、履修が修了したことを証明する。

協力施設名：

研修責任者名 (直筆)：

特定行為研修において患者に対する実技を行う  
実習内容に関する報告書

年 月 日

下記の者が受講した特定行為研修は、以下により実施したことを報告いたします。

協力施設名：

氏名：

1 特定行為研修の目標

本特定行為研修の目標は、個別の医行為ではなく、患者の状態等に応じてどのような特定行為を実施するか、といった医学的評価等を含む術前評価・管理、術中管理、術後管理に亘る「周術期管理」等の一連の業務について周術期麻酔領域の特定行為のパッケージとして研修や指示のあり方を見直すことで、新しいチーム医療体制を推進することである。

2 特定行為区分において患者に対する実技を行う実習を実施した場所の特色

特定行為区分の名称	場所の特色（病床機能等）
(例) 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	〇〇病床及び〇〇病床
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	
動脈血液ガス分析関連	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	
術後疼痛管理関連	
循環動態に係る薬剤投与関連	

3 特定行為区分において患者に対する実技を行う実習を実施した患者の特色

特定行為区分の名称	患者の特色（年齢層等）
(例) 呼吸器（気道確保に係るもの）関連	新生児、小児（〇～〇歳）
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	
動脈血液ガス分析関連	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	
術後疼痛管理関連	
循環動態に係る薬剤投与関連	

4 特記事項

(例) 演習及びシミュレーションによる実習においては、成人及び小児の事例を扱った。

--